

＜学校名＞ 本庄市立本庄西小学校
＜所在地＞ 本庄市千代田4丁目3番2号
＜電話＞ 0495-21-4361
＜本事例の特徴＞

本校は、毎年外国籍の児童が全児童数の一割以上在籍しており、約22年前から日本語指導教室が設置されている。出身国はブラジル・ペルー・ボリビアなど南米が多かったが、近年はバングラデシュ・ネパール・ベトナム・中国などアジアの国も増えつつあり、多国籍化が進んでいる。外国籍児童への生徒指導と外国籍保護者との信頼関係づくりについて紹介する。

＜具体的な取組や成果＞

○外国籍児童への生徒指導

- ・挨拶や返事、座り方など行動の「型」を教える。例えば、通級児童は学習の前に教師と感染症予防のための手洗いをする。次に、筆箱の鉛筆は5本あるか、削ってあるかを確認する等、理由も含めて教えて習慣化させる。
- ・日本語指導教室を安心できる心の居場所にする。在籍学級での課題を終わらせて学級担任との関係を作る。ポケトーク（翻訳機）を使用して児童の努力を称賛する。
- ・国語の教科書の詩を暗誦して校長室で発表させる。目標を達成することで、児童の自己肯定感の向上につながる。
- ・校内での児童同士のトラブル発生時は日本語担当も指導に同席するとともに、その日のうちに保護者へ報告する。

○外国籍保護者との信頼関係作り

- ・会計年度任用職員としてポルトガル語通訳とスペイン語通訳が年間200日勤務している。それぞれ本校勤務18年と本校卒業生であり、学校教育を理解し外国籍保護者へ伝えることに責任感と使命感を持っている。彼女達の存在は、特に来日間もない外国籍保護者にとっては「日本社会への窓」である。日本語指導担当は彼女達の業務遂行のために管理職・学級担任・養護教諭・事務室などと日常的に報告・連絡・相談を行っている。
- ・アジア出身保護者と学級担任とのコミュニケーションのために、年2回全職員対象の日本語指導委員会で「やさしい日本語」の校内研修を行っている。学校からの急なお知らせや不審者の注意などの「まちこみメール」や行事の通知文などは、外国籍保護者対象に「やさしい日本語」でも発信している。
- ・5年生林間学校は初めての宿泊行事のため、毎年日本語指導担当が引率に加わる。保護者と連携して制限のある食材に対応したり、夕方と朝にお祈りの場所と時間を確保したりする等、宗教上の配慮を行った。
- ・学期一回の学級懇談会は確実に情報を伝えるために日本語指導教室で行う。国籍を超えて保護者同士がつながる機会でもある。6月には七夕の願い事の短冊を保護者にも母語または日本語で書いてもらい、好評であった。

